

住友ベークライト株式会社 2025 年 3 月期 決算説明会

主な質疑応答議事録

日時 : 2025 年 5 月 12 日 (月) 15 時 00 分 ~ 16 時 30 分

説明者 : 代表取締役社長執行役員 藤原 一彦

質疑応答では各部門担当役員による補足説明あり

【全社的な事項】

Q : 来期の業績予想を中期計画 340 億円に対して 325 億円とした背景について

A : 為替が円高に進んでおり、また関税影響もあり自動車産業の不透明感が増しているの
で、高機能プラスチックを中心に下げた。

Q : 相互関税が直接与える影響について

A : 一部の原料や製品の取引で直接影響を受ける可能性がある。ただし、米中の関税率が
変化する可能性がある。また、関税の増加部分は、売価転嫁していく中で、タイムラ
グにより少々損失が出る可能性があるが、影響は限定的であると考えている。来期の
業績予想には影響を織り込んでいない。

Q : 株主還元、特に自己株式取得の考え方について

A : M&A など必要な成長投資を行い、キャッシュの状況を見ながら株主に還元してい
く。自己株取得もその手段の一つと考えている。

Q : 水素製造機能膜プロジェクトの進捗状況について

A : 全社の売上収益を 5~6,000 億円に引き上げるため、従来の製品群とは異なる新たな
事業分野に注力している。将来的には年間売上収益 1,000 億円を目指す大型プロジェ
クトである。既に経済合理性を追求した製造検討を開始しており、国内外の一部のお
客様にサンプルを提供し、多くの引き合いを受けている。

【半導体関連材料セグメント】

Q : 半導体封止材の前年度比の数量の伸びと来年度の見通しについて

A : 今年度は約 6 % の伸びであった。来年度も約 7 % の伸長とみている。分野別では情報
通信、自動車、家電、産業機械の 4 分野で見えており、予想は難しいがそれぞれ 5~7 %
の範囲と伸長率に大差はないと思う。

Q : モビリティ戦略 3 製品の見通しはどうか？

A : 見通すのは非常に難しい状況であるが、自動車のエレクトロニクス化の進展や HEV
の伸長により売上は今後も伸びると期待している。

Q：中国の半導体市場の動向について

A：中国の IC 生産個数に合わせて、当社中国工場の封止材の出荷も高水準にある。
自動車、中華スマホは非常に好調であり、AI 関連、ロボティクスもますます伸びてくる見込みである。現在のところ陰りはない。

Q：中国で半導体の内製化が進んでいるが、中国の半導体封止材メーカーとの競合状況はどうか？

A：中国メーカーも技術力は上がっているが、当社がターゲットとしているミドル・ハイエンドのところはまだ参入できていない。

Q：来期以降の貢献が大きくなる製品は何か？

A：モビリティ戦略製品の一つであるステーター用に封止材がロボット分野で採用された。また、パワー半導体用途は、欧米は低調であるが、中国の伸長がけん引していくと予想される。また、AI 用途も米国、台湾中心であったが、中国の存在感も増している。3つの強化領域として掲げているパワー・モビリティ・AI は引き続き貢献すると思う。

【高機能プラスチックセグメント】

Q：本セグメントでの半導体用途の状況について

A：新しく開発した高い耐熱性と透明性を併せ持つ COPLUS という製品名のシクロオレフィンポリマーが、AI 半導体用途を始め、車載用途・エネルギー分野にも採用が広がってきている。放熱材も期待できる。世界各国のお客様から引き合いが入り始めており、半導体用途の比率が今後増えてくることが見込まれる。

Q：トランプ関税の販売数量に与える影響について

A：地域ごとに見ると、トランプ関税の影響を受けやすい地域と、そうでない地域がある。拡販やグループ内での生産のリロケーション、サプライチェーンの見直しで関税への対応を進めている。

【クオリティオブライフ関連製品】

Q：今期の事業利益が予想に対して上振れた要因と来期の見通しについて

A：主な要因はフィルム・シートを始めとして、産業機能性材料、防水事業でも販売が増えている。来期は全体として大きな伸長を見込んでいないが、高付加価値製品へのシフトによるプロダクトミックス改善の取り組みを進めており、更なる成長を目指す。

以上